

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ハプロタイプ解析を用いた日本におけるサイログロブリン遺伝子異常の由来について	菱沼 昭	臨床検査医学	1,800,000	補委	日本学術振興会
気管支喘息に対するカンナビノイド作動薬の治療応用に関する基礎研究	吉原 重美	小児科学(内分泌)	900,000	補委	日本学術振興会
小児期メタボリック症候群の概念・病態・診断基準の確立及び効果的介入に関するコホート研究	有阪 治	小児科学(内分泌)	1,300,000	補委	厚生労働省
小児悪性腫瘍患児に対するインターネットを活用した院内学級活動支援の心理学的検討	福島啓太郎	小児科学(血液)	500,000	補委	日本学術振興会
新しく確立した乳幼児急性脳症における中枢性ベンゾジアゼピン受容体の脳内分布	今高 城治	小児科学(血液)	1,200,000	補委	文部科学省
小児白血病融合転写因子E2A-HLFの高カルシウム血症を誘導する下流遺伝子の同定	松永 貴之	小児科学(血液)	1,900,000	補委	文部科学省
難治性小児白血病におけるアポトーシス抑制蛋白SURVIVINの発現機構の解明	黒澤 秀光	小児科学(血液)	1,500,000	補委	日本学術振興会
重症心身障害児(者)の病因・病態解明、療育・療養、及び施設のありかたに関する研究	山内 秀雄	小児科学(血液)	1,000,000	補委	厚生労働省
脊椎症性脊髄症に対する減圧術が局所脊髄血流量に与える影響	萩野 雅宏	脳神経外科学	2,100,000	補委	日本学術振興会
遺伝子解析・神経発生関連遺伝子発現解析に基づいたグリオーマの発生学的分類の確立	植木 敬介	脳神経外科学	2,700,000	補委	日本学術振興会

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
特定機能病院における脳外科手術の原価費用の精密定量と、症例集中がもたらす費用節減効果の検討	金 彪	脳神経外科学	1,672,000	①補委 厚生労働省
高圧酸素療法が靭帯損傷の治癒過程に与える効果に関する研究	玉井 和哉	整形外科	2,300,000	①補委 日本学術振興会
脊椎靭帯骨化症に関する調査研究	野原 裕	整形外科	主任研究者一括計上	①補委 厚生労働省
排尿筋収縮における尿路上皮よりの調節因子の同定とRho kinaseの役割	山西 友典	泌尿器科学	2,000,000	①補委 日本学術振興会
嗅粘膜分泌異常における活性好酸球の関与～嗅覚障害の発症と改善のメカニズムの解明	春名 真一	耳鼻咽喉科学	2,000,000	①補委 日本学術振興会
リアルタイムモニター飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	盛川 宏	耳鼻咽喉科学	2,500,000	①補委 厚生労働省
HBV侵淫地域である中国、アフリカにおける新しいHBV母子感染対策の臨床治験	稲葉 憲之	産科婦人科学	8,900,000	①補委 日本学術振興会
周産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究	稲葉 憲之	産科婦人科学	78,000,000	①補委 厚生労働省
C型肝炎ウイルス等の母子感染防止に関する研究	稲葉 憲之	産科婦人科学	1,300,000	①補委 厚生労働省
子宮体がんに対する標準的化学療法の確立に関する研究	深津 一雄	産科婦人科学	1,800,000	①補委 厚生労働省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
頸動脈小体glomus細胞における低酸素性化学伝達の遺伝的個体差についての検討	山口 重樹	麻酔科学	500,000	補委	文部科学省
口腔扁平上皮癌においてリンパ節転移を制御する因子の同定	村本 創	口腔外科学	1,300,000	補委	文部科学省
口腔癌での腫瘍特異的キラーT細胞の誘導と腫瘍特異的抗体産生でのOX40Lの役割	加藤 洋史	口腔外科学	1,100,000	補委	文部科学省
RNAiによるHPV陽性口腔扁平上皮癌の遺伝子治療および遺伝子予防	今井 裕	口腔外科学	1,500,000	補委	日本学術振興会
バイオインフォマティクスに基づいた口腔癌個別化治療	今井 裕	口腔外科学	3,200,000	補委	文部科学省
P53機能解析からみた口腔癌の抗癌剤感受性の検索	品川 泰弘	口腔外科学	1,100,000	補委	文部科学省
変異P53癌原性機能獲得のメカニズム	川又 均	口腔外科学	1,400,000	補委	日本学術振興会
超高磁場MRSデータ解析法の開発と前立腺癌悪性度診断システムの確立	楫 靖	放射線医学	1,600,000	補委	日本学術振興会
皮膚三次元培養創傷治療モデルによるケロイドの解析	鈴木 康俊	形成外科	1,100,000	補委	日本学術振興会
がん外科治療における形成再建手技の確立に関する研究	朝戸 裕貴	形成外科	1,200,000	補委	厚生労働省

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新しい診療機器の検診への応用とこれらを用いた診断精度の向上に関する研究	中村 哲也	光学医療センター 内視鏡部門	3,000,000	補 委	厚生労働省
ポジトロンCTのがん診断への応用と診断精度向上に関する研究	村上 康二	PETセンター	11,532,000	補 委	厚生労働省

- (注) 1. 国、地方公共団体又は公益公人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に質するものと判断される主なものを記入すること。
2. 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3. 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。
- 前年度：平成18年4月1日～平成19年3月31日

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respir Circ J 70: 1-7, 2006.	Effects of nocturnal oxygen therapy on outcome measures in patients with chronic heart failure and cheyne-stokes .	Sasayama S, Izumi T, Seino Y, Ueshima K, Asanoi H, Kaneko N, Nakamoto T, Harasawa H, Arikawa T	内科学(心血管・肺)
Drug Dev Res 67: 511-518, 852-861, 2006	Norepinephrine-Induced diastolic dysfunction with aortic valve opening under calcium-loading in rats. K201 improves norepinephrine-induced diastolic dysfunction with preserved ejection fraction.	Kaneko N, Matsuda R, Nakajima T, Shinozaki M, Ohtani N, Oda K, Hasumi H, Shimamoto K	内科学(心血管・肺)
山口徹, 北原光夫編, 今日の治療指針 私はこう治療している. 医学書院, pp. 308-309, 2006	慢性肺性心. TODAY`S THERAPY2006.	中元隆明	内科学(心血管・肺)
治療学 40: 49-52, 2006.	西洋医学を補足する漢方薬の臨床応用とEBM 8 COPD と清肺湯.	加藤士郎, 小田和彦, 荷見尚志, 足立太一, 金子昇	内科学(心血管・肺)
産婦人科治療 92: 120-124, 2006.	慢性呼吸器疾患における漢方療法.	加藤士郎	内科学(心血管・肺)
基準値と異常値の間-その判定と対策. 328-331, 2006.	ナトリウム利尿ペプチド(ANP, BMP).	松田隆子, 家入蒼生夫	内科学(心血管・肺)
漢方と免疫・アレルギー 19: 26-33, 2006.	COPDの気道クリアランスに対する禁煙と清肺湯の併用効果.	加藤士郎, 小田和彦, 荷見尚志, 足立太一, 金子昇	内科学(心血管・肺)
漢方と免疫・アレルギー 20: 100-109, 2006.	漢方補剤によるCOPDの2次感染予防.	加藤士郎	内科学(心血管・肺)
Aliment Pharmacol Ther 24(Suppl. 4): 285-291, 2006.	Review article: regulation of TFF1 (pS2) expression in gastric epithelial cells.	Fujii Y, Shimada T, Koike T, Hosaka K, Tabei K, Namatame T, Tajima A, Yoneda M, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
Regul Pept 140: 81-87, 2006.	Regulation of TFF3 expression by homeodomain proteinCDX2. Regul Pept.	Shimada T, Koike T, Yamagata M, Yoneda M, Hiraishi H	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Gastroenterol Hepatol 4: 1502-1506, 2006.	Curcumin maintenance therapy for ulcerative colitis: randomized, multicenter, double-blind, placebo-controlled trial.	Iwaoka Y, Kanke K, Hiraishi H, Hirayama K, Arai H, Yoshii S, Uchijima M, Nagata T, Koide Y	内科学(消化器)
[Epub ahead of print] No abstract available. 2006.	Gastric ulcer penetrating into the heart. Endoscopy.	Fu KI, Fukui H, Tomiyama K, Kaji Y, Hiraishi H, Fujimori T	内科学(消化器)
Gastrointest Endosc 64: 40-44, 2006.	Magnifying pharmacoscopy: response of microvessels to epinephrine stimulation in differentiated early gastric cancers.	Nakamura T, Suzuki K, Masuyama H, Fujimori T, Hiraishi H, Terano A	内科学(消化器)
International Congress Series. 1287: 355-360, 2006.	Regulation of hepatic function by stress-related neuropeptides in the brain.	Yoneda M, Shimada T, Terano A, Hiraishi H	内科学(消化器)
FASEB J 20: 2058-2067, 2006.	Bactericidal/permeability-increasing protein's signaling pathways and its retinal trophic and anti-angiogenic effects.	Clermont A, Gao B, Saito H, Gundel R, White M, Feener EP, Aiello LP, King GL	内科学(消化器)
Hepato-Gastroenterology; in press.	Des-gamma-carboxy prothrombin (DCP) ratio is a useful prognostic tumor marker for single nodule hepatocellular carcinoma (HCC).	Murakami N, Tamano M, Yoneda M, Sugaya H, Hiraishi H	内科学(消化器)
後藤信哉編, 臨床現場におけるアスピリン使用の実際, 南江堂, pp.88-90, 2006.	NSAIDs潰瘍のハイリスク症例をいかに見出すか.	山形道子, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
渡邊聡明, 味岡洋一, 五十嵐正広, 田中信治編, 日本メディカルセンター, pp.128-134, 2006.	colitic cancer.	富永圭一, 藤井茂彦, 藤盛孝博	内科学(消化器)
渡邊聡明, 味岡洋一, 五十嵐正広, 田中信治編, Colitic Cancer, 日本メディカルセンター, pp.190-192, 2006.	18年間観察しえたdysplasiaの1例.	吉竹直人, 武川賢一郎, 菅家一成, 平石秀幸	内科学(消化器)
高橋信一編, 消化器疾患ガイドライン, 総合医学社, pp.116-119, 2006.	消化管ポリポース.	吉竹直人, 藤井茂彦, 藤盛孝博	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
潰瘍 33: 74-77,	NSAID潰瘍とPPI.	平石秀幸, 山形道子, 菅家一成, 渡辺秀考, 米田政志, 島田忠人	内科学(消化器)
治療学 40: 315, 2006.	アスピリン—改めて注目される古くて新しい薬—suggestion—COX-2阻害薬による消化性潰瘍発生の予防.	平石秀幸	内科学(消化器)
戸田剛太郎編, Annual Review消化器2006, 中外医学社, pp. 221-225, 2006.	消化管—胃・十二指腸疾患—慢性胃炎.	平石秀幸, 菅家一成, 渡辺秀考, 米田政志, 島田忠人, 寺野彰	内科学(消化器)
水島裕編, NSAIDsの使い方コツと落とし穴, 中山書店, pp. 142-143, 2006.	EBMに基づくNSAIDs潰瘍の予防と治療.	平石秀幸	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 163-169, 2006.	こだわりのESD—病理医からみたESDの再評価.	小野祐子, 富田茂樹, 市川一仁, 中村哲也, 平石秀幸, 黒田嘉和, 藤盛孝博	内科学(消化器)
Heart View 10: 1422-1425, 2006.	抗血小板療法—アテローム血栓症をいかに予防, 治療するか? アスピリン治療に伴う消化性潰瘍のリスクをどう考えるか?	島田忠人, 山形道子, 米田政志, 平石秀幸	内科学(消化器)
EBMジャーナル 7: 734-738, 2006.	Helicobacter pylori関連疾患と最新のエビデンス—疾患におけるH. pyloriの関与と除菌効果—胃・十二指腸以外の疾患—鉄欠乏性貧血.	島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
医学のあゆみ別冊, 消化器疾患Ver. 3, pp. 370-372, 2006.	消化器疾患 state of arts II. 肝・胆・膵/治療法をめぐる最近の進歩—NASHの治療 (ARBとPPAR γ 作動薬を含む).	米田政志, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
自律神経 43: 224-227, 2006.	消化管と自律神経—中枢神経系による消化器の臓器相関—脳内神経ペプチドの関与.	米田政志, 島田忠人, 平石秀幸	内科学(消化器)
医学のあゆみ別冊, 消化器疾患Ver. 3, pp. 176-179, 2006.	消化器疾患State of arts消化管(食道・胃・腸)—病態生理の基礎的・臨床的研究—の進歩—消化管と肝胆膵との臓器関連—中枢性神経ペプチドによる制御.	米田政志, 平石秀幸	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
総合臨床 55: 1061-1066, 2006.	日本のプライマリ・ケアよくある健康問題100—疾患編—どう関わる? 悪性腫瘍15—食道癌.	渡辺秀考, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 1034-1036, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors—消化管—内視鏡的にポリペクトミーを行うときには抗血小板や抗凝固薬は中止すべきなのか?	渡辺秀考, 菅家一成, 森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
消化器の臨床 9: 531-534, 2006.	食道・胃接合部病変—Barrett食道—Barrett食道の病態と診断.	田嶋章弘, 島田忠人, 平石秀幸, 桑山肇	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 1517-1520, 2006.	緊急内視鏡早わかり 上部消化管—消化性潰瘍の出血に対する緊急内視鏡.	猪瀬亨代, 高木美幸, 西村奈美子, 平田嘉幸, 島田忠人, 平石秀幸, 桑山肇	内科学(消化器)
Modern Physician 26: 1108-1111, 2006.	内視鏡治療のUp-to-Date—小腸疾患の内視鏡治療—カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡の診断学.	白川勝朗, 中村哲也, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
日本がん検診・診断学会誌 13:104-108, 2006.	カプセル内視鏡.	白川勝朗, 中村哲也, 中野道子, 菅家一成, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
Gastroenterol Endosc 48: 1146-1153, 2006.	小腸用カプセル内視鏡の検査手技—特に画像診断について.	白川勝朗, 中村哲也, 山岸秀嗣, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
今日の治療 13: S7-S60, 2006.	消化器疾患ガイドライン—最新の診療指針—消化管疾患—小腸腫瘍.	白川勝朗, 中村哲也, 平石秀幸	内科学(消化器)
日本レーザー医学会誌 27: 42-50, 2006.	進行癌, 大腸癌に対するPDTの挑戦.	中村哲也, 白川勝朗, 山岸秀嗣, 生沼健司, 平石秀幸, 増山仁徳, 寺野彰	内科学(消化器)
Nebio 23(10): 92-99, 2006.	上部消化器癌の内視鏡治療—胃癌—進行胃癌の内視鏡治療.	中村哲也, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Front Gastroenterol 11(1): 24-29, 2006.	誌上ディベーター小腸診断—カプセル内視鏡を推進する立場から.	中村哲也, 白川勝朗, 山岸秀嗣, 中野道子, 生沼健司, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
消化器外科 29: 105-109, 2006.	小腸カプセル内視鏡の画像診断 カプセル内視鏡による小腸疾患の診断(腫瘍性病変).	下田渉, 白川勝朗, 中村哲也, 喜多宏人, 山本博徳, 砂川正勝, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 613-619, 1008-1010, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors— 診療手技・検査 健診でピロリ菌を検査することに意義があるのか? 消化管—舌が荒れていれば胃炎があるのか?	渡邊菜穂美, 平石秀幸, 森田賀津雄	内科学(消化器)
総合臨床 55: 1483-1487, 2006.	「健康診断をめぐって」—健康診断と疾病—健康診断における消化 管検査 の目的と方法.	渡邊菜穂美, 平石秀幸, 寺野彰	内科学(消化器)
治療 88: 1008-1010, 2006.	日常診療での疑問や噂にズバリ答えます! The Truth of Rumors— 消化管—舌が荒れていれば胃炎があるのか?	森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
からだの科学 246: 32-35, 2006.	気になる胃腸—急性胃炎とAGML.	森田賀津雄, 平石秀幸	内科学(消化器)
臨床消化器内科 21: 503- 508, 2006.	消化管病理組織像一度みておきたい典型例—胃のGIST.	星野美奈, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
臨床外科 61: 141-146, 2006.	診療に役立つ肉眼像と組織像の理解 —マクロからミクロ像を読む—胃良性疾患—非腫瘍性病変.	星野美奈, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
胃と腸 40: 1847-1853, 2005.	いわゆる側方発育型腫瘍の分子生物学的特徴.	藤井茂彦, 富永圭一, 吉竹直人, 星野美奈, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
藤盛孝博編, 大腸腺種・大腸癌—消化器 5, 最新医学社, pp. 63- 77, 2006.	潰瘍性大腸炎に合併する大腸腫瘍,	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 千葉勉, 藤盛孝博	内科学(消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床消化器内科 21: 131-134, 2006.	炎症性腸疾患(2)―潰瘍性大腸炎の癌化.	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 藤盛孝博	内科学(消化器)
分子消化器病 3: 62-68, 2006.	潰瘍性大腸炎関連大腸腫瘍の発生機序は通常の大腸腺腫と異なるのか.	藤井茂彦, 武川賢一郎, 吉竹直人, 藤盛孝博	内科学(消化器)
消化器内視鏡 18: 417- 423, 2006.	消化管の“前癌病変”―慢性炎症から癌への連鎖、病理からみた前癌病変.	吉竹直人, 小野祐子, 平石秀幸, 藤盛孝博	内科学(消化器)
臨床消化器内科 21: 1447- 1450, 2006.	消化管病理組織像一度みておきたい典型 例―胃生検組織診断分類における“Group III”.	山岸秀嗣, 市川一仁, 小野祐子, 富田茂樹, 中村哲也, 平石秀幸	内科学(消化器)
Biol Blood Marrow Transplant 12: 408-413, 2006.	A randomized controlled trial to compare once- versus twice-daily filgrastim for mobilization of peripheral blood stem cells from healthy donors.	Yoshinara S, Yuji K, Ando T, Kami M, Yamamoto E, Hiruma K, Mori S, Hirai H, Sakamaki H	内科学(血液)
Leukemia 20: 1458-1460, 2006.	Development of megkaryoblastic leukemia in Runx1-Ev1 knock-in chimaeric mouse.	Maki K, Yamagata T, Yamazaki I, Oda H, Mitani K	内科学(血液)
Biochem Biophys Res Commun 347: 517-526, 2006.	TEL/ETV6 induces apoptosis in 32D cells through p53-dependent pathways.	Yamagata T, Maki K, Waga K, Mitani K	内科学(血液)
Cancer Genomics Proteom 3: 169-182, 2006.	Gene expression profiles of CD133-positive fractions predict the survival of individuals with acute myeloid leukemia.	Miyazaki Y, Usuki K, Teramura M, Mitani K, Kano Y, O'Neil MC, Urabe A, Tomonaga M, Ozawa K, Mano H	内科学(血液)
Am J Transplant 6: 3042- 3043, 2006.	A solid tumor of donor cell-origin After allogeneic peripheral blood stem cell transplantation.	Arai H, Aoyagi A, Kubota K, Kawamata H, Imai Y, Yamagata T, Mitani K	内科学(血液)
Leukemia 21: 190-192, 2006.	Chronic idiopathic myelofibrosis expressing a novel type of TEL-PDGFRB chimaera responded to imatinib mesylate therapy.	Tokita K, Maki K, Tadokoro J, Nakamura Y, Arai Y, Sasaki K, Eguchi-Ishimae M, Eguchi M, Mitani K	内科学(血液)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Hematol 84: 377-380, 2006.	A novel TEL/ETV6 binding protein KAP1 does not contribute to its transcription-repressive activity.	Nakamura Y, Maki K, Sasaki K, Kitabayashi I, Mitani K	内科学(血液)
日野原重明・井村裕夫編, 看護のための最新医学講座, 第2版, 第9巻, 中山書店, pp.110-114, 2006.	血液・造血管疾患—遺伝子検査.	三谷絹子	内科学(血液)
日本臨床腫瘍学会編, 新臨床腫瘍学—がん薬物療法専門医のために. 南江堂, pp.618-624, 2006.	骨髄異形成症候群.	三谷絹子	内科学(血液)
J Hum Hypertens 20: 557-559, 2006	Do increased plasma adrenomedullin levels in normotensive subjects precede hypertension?	Nishikimi T	内科学(循環器)
Hypertension 47: 671-679, 2006.	Cardioprotective mechanisms of eplerenone on cardiac performance and remodeling in failing rat hearts.	Kobayashi N, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Honda T, Tsubokou Y, Matsuoka H	内科学(循環器)
Hypertension 47: 265-270, 2006.	Activation of AMP-activated protein kinase enhances angiotensin ii-induced proliferation in cardiac fibroblasts.	Hattori Y, Akimoto K, Nishikimi T, Matsuoka H, Kasai K	内科学(循環器)
Mol Cell Biochem 284: 175-182, 2006.	Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.	Ishimitsu T, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Mise N, Omata M, Kimura K	内科学(循環器)
Hypertens Res 29: 253-260, 2006.	Effects of imidapril on left ventricular mass in chronic hemodialysis patients.	Matsumoto N, Ishimitsu T, Okamura A, Seta H, Takahashi M, Matsuoka H	内科学(循環器)
Surg Laparosc Endosc Percutan Tech 16: 78-81, 2006.	Comparison between intraperitoneal CO2 insufflation and abdominal wall lift on QT dispersion and rate-corrected QT dispersion during laparoscopic cholecystectomy.	Egawa H, Morita M, Yamaguchi S, Nagao M, Iwasaki T, Hamaguchi S, Kitajima T, Minami J	内科学(循環器)
J Cardiovasc Pharmacol 47: 629-635, 2006.	Nicorandil but not ISDN upregulates endothelial nitric oxide synthase expression, preventing left ventricular remodeling and degradation of cardiac function in Dahl salt-sensitive hypertensive rats with congestive heart failure.	Horinaka S, Kobayashi N, Yagi H, Mori Y, Matsuoka H	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int Heart J 47: 409-420, 2006.	Relationship between markers of inflammation and brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese men.	Andoh N, Minami J, Ishimitsu T, Ohru M, Matsuoka H	内科学(循環器)
Hypertension 47: 1075-1083, 2006.	Long-term administration of Rho-kinase inhibitor ameliorates renal damage in malignant hypertensive rats.	Ishikawa Y, Nishikimi T, Akimoto K, Ishimura K, Ono H, Matsuoka H	内科学(循環器)
Clin Nephrol 65: 385-392, 2006.	Roles of TGF-beta1 and apoptosis in the progression of glomerulosclerosis in human IgA nephropathy.	Chihara Y, Ono H, Ishimitsu T, Ono Y, Ishikawa K, Rakugi H, Ogihara T, Matsuoka H	内科学(循環器)
Atherosclerosis 187: 92-100, 2006.	Critical role of bradykinin-eNOS and oxidative stress-LOX-1 pathway in cardiovascular remodeling under chronic angiotensin-converting enzyme inhibition.	Kobayashi N, Honda T, Yoshida K, Nakano S, Ohno T, Tsubokou Y, Matsuoka H	内科学(循環器)
Pharmacol Ther 111: 909-927, 2006.	Pathophysiologic and therapeutic implications of adrenomedullin in cardiovascular disorders.	Ishimitsu T, Ono H, Minami J, Matsuoka H	内科学(循環器)
Am J Hypertens 19: 1039-1048, 2006.	Chronic effect of combined treatment with omapatrilat and adrenomedullin on the progression of heart failure in rats.	Mori Y, Ishimura K, Ishikawa Y, Koshikawa S, Akimoto K, Minamino N, Kangawa K, Matsuoka H	内科学(循環器)
Am J Hypertens 19: 1233-1240, 2006.	Cardiorenal protective effects of year-long antihypertensive therapy with a Angiotensin-converting enzyme inhibitor or a calcium channel blocker in spontaneously hypertensive rats.	Ono H, Akashiba A, Takahashi T, Kameda T, Yoshii M, Minami J, Takahashi M, Ono H, Matsuoka H	内科学(循環器)
Nephrol Dial Transplant 21: 924-934, 2006.	Urinary excretions of lipocalin-type prostaglandin D2 synthase predict the development of proteinuria and renal injury in OLETF rats.	Kawabata Y, Numabe A, Negoro H, Taguchi R, Seiki K, Umemura S, Urade Y, Uehara Y	内科学(循環器)
Mol Cell Biochem 284: 175-182, 2006.	Urinary liver-type fatty acid binding protein as a useful biomarker in chronic kidney disease.	Hirata Y, Ishimitsu T, Numabe A, Takagi M, Hayakawa H, Tabei F, Sugimoto T, Mise N, Omata M, Kimura K, Hagikura K,	内科学(循環器)
J Cardiovasc Pharmacol 48:184-190, 2006.	Stent-based delivery of antisense oligodeoxynucleotides targeted to the PDGF A-chain decreases in-stent restenosis of the coronary artery.	Kawano T, Takayama T, Honye J, Kobayashi N, Mugishima H, Saito S, Serie K	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Edited by Abba J. Kastin, Handbook of Biologically Active Peptides, Academic Press, pp.1217-1225, 2006.	Chapter 165. Natriuretic peptides in the cardiovascular system.	Minamino N, Morio H, Nishikimi T	内科学(循環器)
齋藤宗靖編, 循環器病の薬物療法, メジカルビュー社, pp.226-234, 2006.	降圧薬としてのACE阻害薬・AT1受容体拮抗薬.	松岡博昭	内科学(循環器)
金澤一郎, 北原光夫, 山口徹, 小俣政男編, 内科学, 医学書院, pp.839-843, 2006.	二次性高血圧症.	松岡博昭	内科学(循環器)
堀内正嗣編, The ARB-Angiotensin II Receptor Blocker, メジカルビュー社, pp.267-273, 2006.	ARBの薬理作用:降圧作用.	松岡博昭	内科学(循環器)
猿田享男監修, 植田真一郎編集, ランダム化臨床試験を読み解く 一高血圧・冠動脈疾患領域, メディカルトリビューン, pp.133, 2006.	STONE: Doctor's Comment.	松岡博昭	内科学(循環器)
河合忠編, 基準値と異常値の間—その判定と対策, 改訂6版, 中外医学社, pp.269-272, 282-285, 306-310, 311-315, 316-319, 320-323, 324-327, 332-335, 2006.	ACTH. ADH. レニン. アンジオテンシン. アルドステロン. コルチゾール. コルチコステロン. 尿中17-OHCS. 尿中17-KSと分画. アンドロステロン・アンドロステンジオン.	沼部敦司, 家入蒼生夫	内科学(循環器)
山口徹, 堀正二編, 循環器疾患最新の治療2006-2007, 南江堂, pp.381-384, 2006.	白衣高血圧・早朝高血圧.	南順一, 松岡博昭	内科学(循環器)
Pharmacol Ther 111: 909-927, 2006.	Pathophysiologic and therapeutic implications of adrenomedullin in cardiovascular disorders.	Ishimitsu T, Ono H, Minami J, Matsuoka H	内科学(循環器)
J Pharmacol Sci 100: 22-28, 2006.	Molecular mechanisms and therapeutic strategies of chronic renal injury: renoprotective effect of rho-kinase inhibitor in hypertensive glomerulosclerosis.	Nishikimi T, Matsuoka H	内科学(循環器)
Cardiovasc Res 69: 318-328, 2006.	The role of natriuretic peptides in cardioprotection.	Nishikimi T, Maeda N, Matsuoka H	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
内科 97: 164-168, 2006.	利尿薬は高血圧の第一選択薬か？—積極的立場から.	松岡博昭	内科学(循環器)
治療学 40: 82-83, 2006.	ACE阻害薬とアンジオテンシンII受容体拮抗薬の併用療法.	松岡博昭	内科学(循環器)
作業療法ジャーナル 40: 240, 2006.	高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
診断と治療 94: 437-442, 2006.	心疾患を伴う高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
最新医学 61: 771-778, 2006.	高血圧の診断・治療に関する最近の動向.	松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 379-383, 2006.	高齢者の降圧薬処方ノウハウ.	松岡博昭	内科学(循環器)
Medical Science Digest 32: 236-239, 2006.	高血圧.	松岡博昭	内科学(循環器)
マグネシウム 25: 37-41, 2006.	高血圧・心臓病とマグネシウム.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64: 107-111, 2006.	循環生理活性物質. 概論: 循環生理活性物質と高血圧の病態.	松岡博昭	内科学(循環器)
心臓 38: 757-758, 2006.	Ca拮抗薬の使い方.	松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
治療学 40: 871-874, 2006.	高血圧とアルドステロン受容体拮抗薬.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号6): 536-541, 2006.	ガイドラインの変遷.	松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 1022-1026, 2006.	急激な血圧上昇.	松岡博昭	内科学(循環器)
Medicina 43: 1526-1528, 2006.	病態に応じた循環器薬の使い方—カルシウム拮抗薬: 高血圧における使い方.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1319-1322, 2006.	ARB/利尿薬合剤への期待—24時間安定した血圧管理を目指して.	松岡博昭, 南順一	内科学(循環器)
血圧 13: 27-32, 2006.	日米の高血圧診療ガイドラインにおける降圧利尿薬の位置づけ—ALLHATのインパクト.	石光俊彦	内科学(循環器)
動脈硬化予防 5: 78-80, 2006.	早朝高血圧.	石光俊彦	内科学(循環器)
クリニカルプラクティス 25: 1047-1053, 2006.	高血圧診療ガイドラインのエビデンス.	石光俊彦	内科学(循環器)
腎と透析 61: 800-806, 2006.	ACE遺伝子多型と血液透析患者の予後.	石光俊彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1101-1105, 2006.	アルコール制限.	石光俊彦, 南順一, 松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本臨床 64(増刊号5): 278-283, 2006.	L-NAME投与SHR.	石光俊彦, 小野英彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
成人病と生活習慣病 36: 1305-1310, 2006.	21世紀の不整脈診療: 高血圧と不整脈.	堀中繁夫, 松岡博昭	内科学(循環器)
Mebio 23: 51-57, 2006.	合併症のある場合の降圧薬の使用法: 心不全を有する高血圧症例.	錦見俊雄	内科学(循環器)
日本薬理学会誌 128: 153-159, 2006.	高血圧性糸球体硬化進展におけるRho/Rho-kinase系の役割—Rho-kinase阻害薬の糸球体保護効果とその分子機序.	錦見俊雄	内科学(循環器)
血管 29: 37-46, 2006.	循環生理活性物質の血圧調節に関する分子機序と病態生理的意義.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
脈管学 46: 667-673, 2006.	高血圧性糸球体硬化におけるRho-kinase阻害薬の腎保護効果とその作用機序.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
老年医学 44: 1675-1678, 2006.	高齢者における二次予防試験. 高脂血症への介入による脳血管障害の再発予防.	錦見俊雄, 松岡博昭	内科学(循環器)
血管 29: 113-124, 2006.	心血管疾患におけるNitric Oxideの病態生理学的意義.	小林直彦, 松岡博昭	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号5): 303-310, 2006.	Dahl心不全モデルラット.	小林直彦, 錦見俊雄	内科学(循環器)
Medicina 43(増刊号6): 80-82, 2006.	低血圧症.	南順一, 阿部力, 松岡博昭	内科学(循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
循環Plus 6: 7-9, 2006.	論議の的とされる降圧薬の作用～降圧か臓器保護か.	南順一	内科学(循環器)
日本臨床 64(増刊号6): 247-253, 2006.	降圧薬の処方動向.	南順一, 石光俊彦, 岩瀬利康, 越川千秋	内科学(循環器)
血圧 13: 142-143, 2006.	Information Up-to Date: 脳卒中によるARBの二次予防—MOSES.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 238-239, 2006.	Information Up-to Date: 高蛋白食、単価不飽和脂肪食はDASH食の降圧効果を増強する.	松岡博昭	内科学(循環器)
Pharma Medica 24: 59-66, 2006.	REAL VALUE Expert Meeting 2005: VALUE Studyの意義.	渡辺毅, 岩本俊彦, 片山泰朗, 鈴木則宏, 平田幸一, 池田宇一, 福田恵一, 山崎力, 石橋俊, 寺内康夫, 山田信博	内科学(循環器)
暮しと健康 61: 88, 2006.	暮しと健康相談室: 下の血圧(拡張期血圧)が高いがどんなリスクがあるか.	松岡博昭	内科学(循環器)
日本医事新報 4297: 91- 92, 2006.	質疑応答Q&A: 高血圧患者の診察前後の血圧値.	松岡博昭	内科学(循環器)
血圧 13: 1038-1039, 2006.	Information Up-to Date: 収縮期血圧と脈圧—虚血性心疾患予知.	松岡博昭	内科学(循環器)
Pharma Medica 24: 100-102, 2006.	Expert Meeting 2006: 脳卒中中のリスク管理の問題点: 高血圧の視点から.	松岡博昭	内科学(循環器)
内科 98: 493-505, 2006.	降圧薬の選択—最近の進歩.	平田恭信, 久代登志男, 林晃一, 石光俊彦	内科学(循環器)